2016年10~12月期の業況について

前年同期(15年10~12月期)と比べると

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

良くなる

15.4%

(15.4%

※カッコ内は 10~12月期実績

10~12月期実績

10~12月期実績

震での教訓を学ぶねら 4月に発生した熊本地 学会災害委員会が昨年

の被害について解説

河合教授は木造建築

耐震基準後の建物に

図ることが

重

要

化を

みに関するセミナーが 学、民間企業の取り組 体の巨大地震対策や大

うちマンションは0・

連続増となった。この

材工設計価格は

11.8%

11.8%

良くならな

(41.2%

良かった

24.3%

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

良くなる

16.9%

良くならない 46.8%

良くなる

(33.3%)

20.0%

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

良くならない

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

良くならない

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

良くなる

15.4% (38.5%

良くならない

良くなる

(11.8%)

23.5%

【関東一区】

《カッコ内は 10~12月期実績

※カッコ内は 10~12月期実

《カッコ内は 10~12月期実績

を開いた。「ここまで来 で自然災害対策技術

セミナ

を開いた。

シフィコ横浜

の専門

家と市民との対

建築構造

をテーマにした

進まなかったことが被大震災後の耐震補強が

0%減の79 万7千㎡、

8万3千

害につながったと指

ラスからマイナスに転

mとそれぞれ前年のプ

じた。店舗も0・7%

· スカラ

ことに触れ、

阪神淡路

工場が9・

造になっているマン

な使途別では、

事務所

が8・5%減の5

「デザインクリ

築の被害について解

年ぶりにプラスに転じ

月 27 日 、

パター

トショ

のうち主

用は0・9%増の4

80万㎡でそれぞれ3

階がピロティ構

斉藤教授はRC造建

ションが被害を受けた

災害への『備え』

本地震での木造及び

減災関連の技術や設備

対応につ

合直人教授

自然災害対策に関する 機器の展示会のほか

2日には、日本建築した。

藤大樹教授が講演

かったため」とした

重要」

そのほか、国や自里要」とまとめた。

国や自治

| 万7237戸で、2年

万7237戸で、2年 剛年比6・4%増の96 96

被害を軽減するに

化が実施されて

な

く把握しておくことが

年連続で増加した。

とで、

コンクリー

の869万3千㎡と6

などの部材接合部 込まれた「柱や筋

の強

で、「建物の性能を正 原理を解説したうえ と『対応』のテクノ

筋コ

ト造建築

その原因

―」をテーマに防災・

の被害や今後取るべき

0年の基準改定で

免震、

制震の3構造の

3年連続で減少した

た。

倉庫は9・3%増

ンクリ

の対策として、耐震、

減の60

万9千㎡と

今後のRC造建築

良くなる

25.0%

(28.6%)

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

良くならない

(42.9%

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

52.6%

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

2017年1~3月期の業況見通し

前年同期(16年1~3月期)と比べると

良くなる

15.8%

さほど

良くならない

(21.1%)

良くなる

22.2%

(47.1%)

・カッコ内は 10~12月期実績

【関東二区】

※カッコ内は 10~12月期実績

10~12月期実

※カッコ内は

震災対策技術展

熊

本地震から教訓

災害対策技術を展

示

地震から首都圏の住民

10~12月期実績

た生コン業況定期調査

部を対象に実施

芦続

出荷増

売価上昇

コスト減

その他

出荷堆

コスト減

その他

売価上昇

来

IJ

イナスだった。ただ、マ13・9で、11期連続のマ

ラスは関東一区、近畿、 地区別で見ると、プ

を維持し

、東海はマ

関東一

区はプラス

19 5.

。地区別で

ナス圏からゼロに改善

縮まっており、

連続。関東一区は8期が主因で、四国の3地区。出荷増四国の3地区。出荷増四国の3地区。出荷増

続でゼ する。

ゼロとなる。一方。北海道も2期連

2016年10~12月期 良かった理由

(件数。複数選択)

2017年1~3月期 良くなる理由 (件数。複数選択)

、幅は期を追うご

ート新聞

2016年10~12月期実績

2017年1~3月期見通し

によると、20

6

本紙基準では全国

~12月期

〜12月期の全国の業

業況DIは3期連続で

全国の業況見通しD

出荷減

売価低下

コスト増

その他

3月期見通し

▲(マイナス)

やや悪い

が「普通」、

や悪い」、

えそうだ。

の地域で売価が低下

▲ (マイ

は良

基準

ブラン

トやポンプ

コンクリ

出

荷金額(コンクリ

している。

機械の国内

ると、20

車

関連機器などが対

•

送

(基) 120

110

100

90

80

70

60

では東京オ

続くとみている。

算で約1

20

 \underbrace{m}_{\circ} 圧送業

質問が出た。中村社長与えないか」といった

テが生コンに悪影響を

に残った微量のモレスズムの解明や「配管内

率が向上

脱水ケー

も削減できる」と述

生コン工場でも配車効

ポンプ車は2割が

いる工場の更新需要が

延長1 ホース7 が 60 m、

00m(水平換7mを用いた総、フレキシブル

社は今後も老朽化

プラントメ

18・20)となった。組合

ピ

ツ

械出荷金額統計によ 長)がまとめた建設 械工業会(辻本雄 5 している。日本建設の出荷が高水準を維 昨年 の285億E が、200 と高い水準を維持し 200億円台後半 -年ぶりの減少だ -85億円となっ 方でも需要高まる 新が高 して 製品

6年の 械の出荷金額は99年 128億円を底に増加せる出荷金額は9年の いる。コンクリ 80基を超えた。 減)の8基。3年連続でむ)は8基減(8・3% 製品工場向けも含一新設、コンクリー

トの国内出荷台数(S い割合から悪い トプラン テ ントの更新が進んだ。 維持する。地域によっ かに改善して 強度コンクリ コン業況は総じて緩や (48基)。00年以降は1 て状況は異なるが、生 出荷台数の底は10年 いるとい ▲10台を

期の業況見通しD 広まり、都市部を に05年前後にプラ トの採 事件による建築基準法しかし、耐震強度偽技 強化による建築不沢、 さ ショックに伴う景気低 退。需要減に伴 迷で設備投資意欲が後 らにリ

興が盛期を越え、一部九州。東北では震災復 なった。 社体制だったのが、3 プラス圏に浮上。近畿 逆に「悪い」が東北、 年の東日本大震災 のプラスと い、プラ 転落 あった。その後、首都圏 クダウ 復旧需要のほか、復興 で被災したプラントの から青森県の太平洋側 から「やや悪 で状況が一 2016年10~12月期 悪かった理由 (件数。複数選択) し、基準で「普通」 トや新設工場も 変。千

もマ る。 減るため、北 いる。特に生コン市 陸や が広 中 が国

2017年1~3月期 悪くなる理由 (件数。複数選択) 出荷減 売価低下 コスト増 その他

が参加した。 業者や大手ゼネコン 圏や兵庫、

モレステは生コンエ 群馬の圧送

圧送後のモレステ

最大寸法25㎜の生コンプ9㎝、粗骨材

テと生コンの品質を確 呼び強度24、 公表した建設工 国土交通省が

9

億円で、7年連

続のプラスだった。こ

た。

は4・1%増の14兆6

3980億円だっ 年比5・7%増の 注動態統計調査報告 (速報) によると、 6年の受注高

86 は 前 2 0%增、 9 のうち国内公共工事は

転じた。国の機関は9・ 92億円となり、 庫・流通施設の工事は 9・5%増だった。倉 のマイナスから増加に %増の3兆88 地方の機関は 昨年

減 の 1 年連続のプラスだった。 増の9兆9542億円 8兆1923億円で2 製造業は7・5%増の た。製造業は11・2% Ł で3年ぶりの減少。 日本建設業連合会が 2年連続で増加し

祉施設、教育•研究• 文化施設なども増加し 民間工事は3・6% 9億円 %増の だものの、 9%増の4兆6763 国の機関、

だった。公共受注は7・ が13・6%減の1兆5 た。 7775億円とプラス 677億円と落ち込ん 注は6・6%増の8兆 円だった。製造業受注 民間受注は3・0 10兆3452億 非製造業受

が対象)によると、2注調査(法人会員97社 15兆472億円だっ は前年比4・4%増の 月30日に公表した受 6年の国内受注高

16年民間は2年連続増 務所・庁舎、医療・福

ハがプラス転換 ばいけなくなるとし 「モレステが広まれば一た。 よる設計業務を披露し

が改善したエリアや特 需のある地域で更新 直近2年間で2工場が を含めた設備更新を計 複数社がプラント更新 操作盤やミキサ車ので れ替えも進む。現在も プラントを更新した。 ている。協組によると は設備を更新 いるという。

設立された大分中央生 値だった大分は12年に では、かつて国内最安 14社15工場)の共販 ある石 陸新幹線の延伸特需が

> 25台だった。10 台減(20·0

出荷が半 たことが

キング部分の継手に投

字管やカーブなどドッ

入することが望ま.

方法などで確認してい

を製造する「IW

を紹介し

した。

P

料に着色して確認する

一とした。

くとした。

最後に長岡生コンク

出圧力などでした。また、圧

とが半減の3 12 3 12 3 12 3 12 3

車の16年出荷台数は81

できないか」との質問

コンの荷受け口に投入

ニズムはこれから解明 は材料分離しないメカ

材として、

戻りコンや

社が取り扱っている商

また、デモでは長岡

すること、配管内に

者から「モレステを生

デモ終了後、

があり、中村社長は「T

残った微量のモレステ

の影響については、

材

ドロン」や、

コンクリ

トポ

クリパン ンピックを ラ 進む。市況改善の事

14年 15年 16年 コンクリ機械出荷金額とプラント基数の推移 , 備投資が14 見据えた設 圏以外の大 お発化し始 都 年ごろから 7開発に合 も

更新が始まっている。 わせて設備

出荷金額

プラント基数

-

う更新需要が出始めてでも設備の老朽化に伴更新が滞っていた地方 川端工業

性があることから、販輸送管が閉塞する可能

は、先行モルタルは生リートの宮本充也社長

福井のコンク

(億円) 350 _F

300

250

200

150

100

葉県

村光宏社長) 上送業者**、**川端工業(中 は 3 日 行モル 生する紙粉を主原料と るだけで、

タ

P

替

現場で水を混合す

は圧送車のブ

4インチの輸送管 | テが分離しないメカニ ||送車のブームが33 | 施工者からはモレス ||用した。圧送距離 | 明した。

を使用した。圧送時

とを検討していると説

ルを全量処理しなけ 場に戻ってくるモルタ の受講を条件にするこ 売を行う際には講習会

効率が悪化し、かつエコン工場にとって配車

n

 ${\scriptsize \begin{array}{c} C \\ o \\ n \\ s \\ t \end{array}}$

ク (YDN) が、

先行モルタ

タルに代わる新商材の国市) で、先行モル フラント 長岡生コンクリー (静岡県伊 复旧 造工 水を加えて撹拌する製 できる材料 ルに比べ使用量が低減 デモでは、主原料に 程から、

T字管:

ストレーションを開い「モレステ」のデモン 生コン会社など約30名 た。静岡のほか、首都 の投入、筒先でモレス

場で発生する脱水ケ とで発

(左)生コンと混ざる

がった

高は8・0%増の8兆23 70億円、下請け受注 28. このうち元請受注意

共機関からの受注は元請受注高のうち、公 620億円だっ

減少したが、

4%増の16兆37 水, 港湾・空港は堅調 市区町村の事

治山·治

倉庫は6

プラスに転じた。

50億円、

民間等が

は5・0%増の4!

兆8 から

建築着工

公共受注

年連続増

国土交通省が1 16年マンションは微減

は2年連続の増加だっプラスに転じた。民間は前年のマイナスから

は2年連続の増加が

社の建設工事受注

総額

積は前年比2・7%増

同日公表した大手50

告によると、着工床面

の建築着工統計調査報 日発表した20

で、3年ぶりに増えた。の1億3296万㎡

2%減だったが、 などが落ち込んだ。

8007万㎡、非居住 居住用は4・0%増の 民間建築主のうち、

増だったが京都、兵庫近畿は大阪が5・1% と埼玉が2ケタ増。 。首都圏は東京が3・ 神奈

表した。天然素材の風 現するため、新たに 合いを一層リアルに表 をデザインする床材 立体模様を表現できる。 マットを押し当てて床 方の機関ともそれぞれ 面に石畳や木目などの にした9色を追加し に新色を追加したと発 床材に新色追加 同製品は打設した 硬化前にパターン エービーシー商会 トを押し当てるこ トに着色 -をベース 一商会は 地 コンクリートの劣化と補修がわかる本update

2009年の刊行以来、4刷を数える当社ベストセラー「コン クリートの劣化と補修がわかる本Plus」に最新情報を盛り込 んで大改訂(update)した。

発売中 コンクリート構造物の耐久性に影響を及ぼす劣化要因は 数多い。本書では中性化、塩害、アルカリシリカ反応といっ た代表的要因に加え、乾燥収縮、化学的侵食、火災、溶脱など10種類の劣化 要因を取り上げ、劣化のメカニズムと現象、補修、予防といった対策を示した。

コンクリート構造物の耐久性をどう高めていくか、維持管理の時代におけるコン クリート構造物の劣化診断や補修・補強をいかに適切に実施するかということ について、各分野のエキスパートが熱筆をふるって「plus」を「update」させた充実 の一冊

和泉意登志、竹田宣典

神谷清志、古賀裕久、鳥取誠一、長尾覚博、濱幸雄、 前田敏也、横関康祐

(本体価格2,800円+税) www.beton.co.jp





ンを用いた3D画像に に薬剤を投入して骨材 試行されているドロー ション)の土木工事で ちゃな土木ネットワー 水分の多い土壌を改質 する瞬間吸水材「セル (アイコンストラク 戻りコン 本書は全国生コンクリート工業組合連合会の技術委 員長を1997年から2009年までの12年間務めるなど、 業界の技術発展に寄与されてきた吉兼亨氏が、長年 にわたるコンクリート技術の集大成として、コンクリートの 耐久性の確保を中心に、良いコンクリート造りについて 述べたものである。著者は学生時代にアルバイトで、佐 久間ダム建設に携わったという。佐久間ダムの着工は 1953年、竣工は56年であるから、なんと60年前である。 その後、大有建設技術研究所でコンクリートとアスファル トコンクリートを研究するなど、これまで著者が培ってきた 技術の蓄積を、次世代の技術者に継承しようとの意欲 がうかがえる1冊である。

A5判 176ページ(本体価格 2,500円+税)

造り方 良いコンクリ 著:吉兼亨 の

コンクリート新聞社 TEL. 03-5363-9711

www.beton.co.jp

コンクリート新聞社 TEL. 03-5363-9711